

## 〔学会記録Ⅰ〕

## 第18回東日本歯学会学術大会 定例講演会・シンポジウム

## 企画・総合司会者総括

北海道医療大学歯学部口腔外科教室第一講座  
教授 金澤 正昭

はじめに、本年の学術大会は2月26日北海道歯科医師会館で開催されましたが、皆様のご協力により大過なく終了いたしました。本紙面をお借りし、担当者として心から厚くお礼申し上げます。

本大会も18回を数えましたが、初の試みとして下記のようなシンポジウムを挙行いたしました。その際、同時開催された定例講演会の北海道歯科医師会常務理事山崎 和先生のご講演を、本シンポジウムの基調講演とさせていただくとともに、4名の演者の発表が行われました。

**定例講演会（シンポジウム基調講演）** 座長 五十嵐清治  
「要介護者の歯科治療」 北海道歯科医師会 常務理事 山崎 和

**シンポジウム** 座長 川上智史  
「21世紀の歯科医療福祉を考える」

1. 開業歯科医における訪問歯科診療の実態  
医療法人社団弘志会 理事長 松崎弘明
2. 本学歯学部附属病院における訪問歯科診療実績から  
北海道医療大学歯学部補綴学第一講座 講師 越野 寿
3. 当センターにおける障害者歯科への取り組み  
東京都立心身障害者口腔保健センター 関口五郎
4. 障害者の歯科医療と口腔ケア  
一緑星の里歯科診療所における取り組み—  
北海道医療大学歯学部口腔外科学第一講座 講師 道谷弘之

また、各演者の発表終了後、松田浩一歯学部長、坂口邦彦病院長、三島 顕岩見沢歯科医師会長の指定発表者や演者をまじえての討論が行われました。

本シンポジウムは、これからの歯科界の重要課題である高齢者および障害者などの、介護を要する患者さんの歯科医療は如何にあるべきかを考える場としましたが、これを私なりに総括しますと、

- 1 歯科医療を提供する側と受ける側の相互理解と信頼関係の構築
- 2 各医療施設に於ける歯科医師とその他のスタッフとの連携
- 3 歯科医師会、行政、大学ならびに個々の歯科医師の役割分担と協力体制の確立

などの問題点が明らかとなりました。

以上の点を踏まえますと、訪問診療を含む高齢者および障害者歯科治療に関して大学の担うべき役割は、卒前教育、またこれらの患者さんの二次および三次歯科医療の実践と歯科医師ならび関連スタッフなどの卒後研修や再研修の場にあると考えます。さらに、益々加速される歯科医師過剰時代も考慮して、今後の歯科界には「競合」ではなく、それぞれの持ち場で互いに力を合わせる「協合」の必要性が痛感されました。

最後に、演者の皆様には、ご多用中にもかかわらず、ご寄稿を賜り重ねて感謝申し上げますとともに、編集の都合上、参考文献など一部を割愛させていただきましたがご容赦の程お願いいたします。